

## 浦島伝説

ウサンシー(穩作根子)は気品の高い若者でした。ある日、与那久浜でかもじ(女性の髪に添えつける髪)を拾い持ち主を探していました。現れた持ち主はとても美しいお姫様でした。姫はとても喜んでウサンシーを善人だとほめ竜宮へ招きます。竜宮では時の立つのも忘れるほど厚いもてなしを受けました。3ヵ月が過ぎた頃ウサンシーは帰ろうと思いましたが彼は故郷が忘れがたく帰る事になりました。姫は名残を惜しんで「この紙包みを私と思い持ち帰ってどんな事があっても開けないでください」と手渡しました。

故郷に帰ったウサンシーを知る者はやはりいません。一人寂しく村の前の丘に登って行きました。そして姫からもらった紙包みを開けると中には白髪が入っていました。それがウサンシーの体につくとウサンシーは急に老化し死んでしまいました。ウサンシーはその場所に葬られ、その場所はウサン嶽と名づけられました。(字誌等を参照)



## 与那覇プロフィール

人口(男)…1,199人 世帯数…953世帯  
(女)…1,230人 面積…44.2ヘクタール  
合計…2,429人 2019(令和元)年10月末現在



作成:南風原平和ガイドの会(2011年)

発行・改訂:一般社団法人南風原町観光協会(2019年)

住所:沖縄県島尻郡南風原町字本部158

電話:098-851-7273 FAX:098-851-7109

メール:chiiki-machidukuri@haebaru-kankou.jp

HP:http://www.haebaru-kankou.jp



浦島伝説とやまびこのムラ

# 与那覇



絵:新垣 正宏

一般社団法人 南風原町観光協会

## 字内の主要な道路

与那覇には琉球王国時代から重要な幹線道路が2本走っていました。ひとつは、アガリウマイミチ(東廻り道・お新下り道)、もう一つは、首里と大里を結ぶ道スイミチ(首里道)でハミシが敷かれた馬車道でした。

## 与那覇の沖縄戦

南風原で与那覇は他字に比べると大きな特徴があります。学童疎開をした子供たちが多かったこと、1944(昭和19)年の10・10空襲の時、与那覇だけが空襲にあったこと、戦死率が低いことです。

当時与那覇では、各家庭の防空壕の外に字の防空壕も各班ごとに作っていました。

10・10空襲の時、各班の防空壕に避難できたので死者はひとりもださずにすみました。しかし、ほとんどの家屋・家畜も焼けて仮小屋に住み苦しい生活をしなければならませんでした。家財を失ったため沖縄戦の時には疎開をする人が多く、結果的に低い戦死率になったと思われます。



石獅子(上沢岬)



終戦後のカヤブチムラー

## ⑨サーターヤー

戦前4つのサーターヤーがあり、それぞれ門中ごとに馬を使ってサトウキビを圧搾していました。

1939(昭和14)年にディーゼルエンジンの機械が導入され、部落共有の一つの製糖工場になりました。



絵  
親泊賢次



## ⑩ナビラモー

言伝えによると昔は丘の近くまで波が打ち寄せていたと言われています。

現に井戸やボーリング調査で貝がらや砂が出てきたそうです。

丘の頂上からは与那原の街全体、遠くは知念半島・中城湾も見渡せます。



## たんぽぽ地蔵

今から55年前、劇団たんぽぽ観劇のため与那原への移動中の南風原小学校5年生の列にトラックが突っ込み2人の児童が亡くなるという痛ましい事故が起きました。

公演していた劇団の団長さんは、その痛ましい事故を悼んで事故現場に二体の「こども地蔵」を建立。

現在はよなは保育園の敷地内にあり子ども達の交通安全を見守っています。

## ⑧ウサン嶽



写真:字誌より

与那覇に語り継がれている浦島伝説の主人公、ウサンシーが眠っています。昔、ウサン嶽は海人が日印にする程小高く、富士山の様な美しい形をしていました。

しかし、沖縄戦、その後の開発などの影響を受け、現在の形に様変わりしました。



ウサン嶽の入り口

## ①トーマヌウタキ(トーマの御嶽)



カンジャーヤー跡(鍛冶屋跡地)が当間原だったので、そう呼ばれています。

鍛冶屋の跡の火の神を中心に祀ってある御嶽だといわれています。戦前はシマヌ山とよばれる小高い丘の中にありました。

## ②ウドウングワー(御殿小)



浦島伝説のウサンシー(穏作根子)の屋敷跡だと言われています。戦前は瓦屋根の建物であったが戦争で破壊され戦後にトタン屋根、現在はコンクリート建ての建物です。村落祭祀の内、正月の初拝みから12月のトウシヌユルー(年の夜)まで祭祀儀礼が最も多く行われる拝所です。

## ⑦メーヌカー



メーヌカーはウプガー(産井戸)ともいわれ、字民に子供が来ると、ウプガーの水で赤ちゃんを清め、加護を願いました。区民の皆様は正月に若水を汲んで仏壇にお供えました。

その他、ウマチーの日には、神人がメーヌカーで身を清めイントウンに登るなど、神聖な水として重宝されました。

## ⑥ウーヌミーグワー



糸芭蕉が生えていました。池の中は中洲(陸地)があり、真ん中が盛り上がっていて獅子の頭に似ていたことから中洲にはシシガシラと名がついていました。

百度の御願に拝みます。

## ⑤ヌンドウルチ(与那覇ノロ殿内)



ヌンドウルチは村落祭祀を行う聖地です。ヌンドウルチに祀られているウコールは仲屋(宮城)と照屋が祀っていましたが、現在は、ノロもないので区長が代表で村落祭祀を行っています。

# 与那覇MAP



## ④クボー御嶽

クボー御嶽の拝所は本来、グスクヌチジの東寄りにあったものが、現在は県道240号線(与那原向け)に移されています。

グスクヌチジ周辺は発掘調査によってグスク土器や、中国産の陶磁器、石畳等が発掘されています。

## ③イントウン・クシヌモー



小高い丘陵(51.7m)で東西に連りムラの中で重要な拝所です。北側にはウトウーシ(遥拝所)があります。クシヌモーからムラウチに向かって「おーい」と呼べばヤマビコが帰ってきたそうです。

